



**2008年度 第一四半期決算
カンファレンスコール用資料**

**2008年8月4日
参天製薬株式会社**



2008年度 第一四半期 連結業績概要

執行役員 計画・統制本部長
納塚善宏

(見通しに関する注意事項)

この資料は参天製薬の戦略、計画、業績などに関する将来の見通しを含んでいます。この見通しは、現在入手可能な情報をもとにした当社経営者の判断に基づいています。従って実際の業績は、事業環境の変化、新薬の承認時期、為替レートの変動、行政動向など様々な要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。



連結業績概要

(単位：億円)

	2007年度 1Q実績	2008年度		
		1Q実績	増減額	増減率
売上高	265	254	▲11	▲4.0%
営業利益	59	▲1	▲60	—
経常利益	62	1	▲61	▲97.9%
四半期純利益	38	1	▲37	▲96.5%

業績予想 *		
中間	中間進捗率	通期
520	49.0%	1,040
42	—	151
47	2.8%	156
31	4.4%	98

*業績予想は、2008年6月10日発表時のもの



販売部門別 売上高 / 海外売上高

■ 販売部門別 売上高

(単位：億円)

	2008年度 1Q実績					
	国内		海外		合計	
	売上高	増減率	売上高	増減率	売上高	増減率
医療用医薬品	203.8	▲2.2 %	34.1	▲7.2 %	237.9	▲3.0 %
眼科薬	177.7	▲3.1 %	34.0	▲5.7 %	211.7	▲3.5 %
抗リウマチ剤	25.5	3.8 %	-	-	25.5	1.1 %
その他医薬品	0.6	17.4 %	0.0	71.0 %	0.6	22.1 %
一般用医薬品	12.8	1.4 %	0.0	37.5 %	12.8	1.5 %
医療機器	0.9	▲22.9 %	-	-	0.9	▲29.6 %
その他	0.5	▲65.9 %	2.3	▲48.4 %	2.8	▲52.7 %
合計	218.1	▲2.5 %	36.4	▲11.9 %	254.6	▲4.0 %

■ 海外売上高

(単位：億円)

	2007年度 1Q実績	2008年度		
		1Q実績	増減額	増減率
欧州	22.5	22.4	▲0.1	▲0.4 %
北米	3.8	2.5	▲1.3	▲34.0 %
アジア	15.0	11.4	▲3.6	▲23.6 %
合計	41.4	36.4	▲5.0	▲11.9 %

S 連結売上高:増減要因

2007年度 1Q
実績売上高
265.2億円

▲10.6億円

2008年度 1Q
実績売上高
254.6億円

国内 ▲ 5.7億円

[増収要因]

✦ 抗リウマチ	+	0.9億円
✦ 一般用医薬品	+	0.2億円

[減収要因]

✦ 医療用眼科薬	▲	5.6億円
✦ 医療機器	▲	0.2億円
✦ その他	▲	0.9億円

海外 ▲ 5.0億円

[減収要因]

✦ 欧州	▲	0.1億円
✦ 北米	▲	1.3億円
✦ アジア	▲	3.6億円
✦ うち、中国	▲	1.8億円
✦ うち、韓国	▲	1.6億円

国内医療用眼科薬

✦ 抗菌	▲	2.5億円
✦ 角膜	+	1.5億円
✦ 緑内障	▲	2.7億円
✦ アレルギー	▲	0.8億円
✦ その他	▲	1.5億円

欧州

✦ 医療用眼科薬	▲	0.3億円
✦ うち、西欧	+	0.9億円
✦ うち、北欧	+	0.2億円
✦ うち、ロシア	▲	1.6億円
✦ 受託製造 他	+	0.2億円

北米

✦ 医療用眼科薬	+	1.2億円
✦ 受託製造 他	▲	2.5億円



損益計算書 要約差異

<為替レート>

2007年度1Q実績
 US\$ 120.69円
 Euro 160.23円

2008年度1Q実績
 104.22円
 160.19円

(単位：億円)

	2007年度 1Q実績	2008年度	
		1Q実績	増減額
売上高	265	254	▲11
売上原価	94	91	▲3
(対売上高比率)	35.5 %	35.9 %	0.4 ppt
販売費・一般管理費	111	164	53
(対売上高比率)	42.2 %	64.5 %	22.3 ppt
研究開発費を除く販管費	80	79	▲1
(対売上高比率)	30.3 %	31.2 %	0.9 ppt
研究開発費	31	84	53
(対売上高比率)	11.8 %	33.3 %	21.5 ppt
営業利益	59	▲1	▲60
(対売上高比率)	22.3 %	▲0.4 %	▲22.7 ppt
営業外収支	3	2	▲1
経常損益	62	1	▲61
特別損益	0	0	0
税引前当期純利益	61	1	▲60
法人税等	23	0	▲23
当期純利益	38	1	▲37



所在地別セグメント情報

■ 売上高

(単位：億円)

	2007年度 1Q実績	2008年度	
		1Q実績	増減額
日本	237	227	▲10
欧州	26	25	▲1
うち欧州	22	22	0
うち米国	3	2	▲1
その他 ※	1	1	0
合計	265	254	▲11

■ 営業利益

(単位：億円)

	2007年度 1Q実績	2008年度	
		1Q実績	増減額
日本	63	4	▲59
欧州	3	1	▲2
うち欧州	1	0	▲1
うち米国	1	0	▲1
その他 ※	▲2	0	2
消去又は全社	▲5	▲5	0
合計	59	▲1	▲60

※ その他地域はアメリカ、中国、台湾、韓国であり、主な売上高と費用は下記の通りです
 売上高：台湾および韓国の医療用医薬品、費用：米国の医療機器の研究開発費
 (注) 海外売上高(仕向地別売上高)と区分は異なります



貸借対照表

(単位：億円)

	2007年度末		2008年度1Q末		
	実績	構成比	実績	構成比	増減額
流動資産	1,027	65.6 %	964	63.0 %	▲63
固定資産	535	34.2 %	567	37.0 %	32
繰延資産	2	0.2 %	0	0.0 %	▲2
資産合計	1,565	100.0 %	1,531	100.0 %	▲34
流動負債	265	17.0 %	251	16.4 %	▲14
固定負債	28	1.8 %	30	2.0 %	2
負債合計	294	18.8 %	282	18.4 %	▲12
純資産合計	1,271	81.2 %	1,249	81.6 %	▲22
負債純資産合計	1,565	100.0 %	1,531	100.0 %	▲34

【主要変動科目】

- 流動資産：現金及び預金 ▲73億円、受取手形及び売掛金 +16億円、繰延税金資産 ▲8億円
- 固定資産：投資有価証券（時価評価差益）+13億円、繰延税金資産 +24億円
- 流動負債：未払金 +22億円、未払法人税等 ▲28億円、賞与引当金 ▲12億円
- 純資産：有価証券評価差額金 +7億円、利益剰余金 ▲30億円



キャッシュフロー計算書 要約

(単位：億円)

	2008年度 1Q実績
現金等期首残高	516
現金等 増減額	▲95
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲37
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲29
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲32
換算差額	3
現金等期末残高	420

(注) 上記「現金等」には現金同等物を含んでいるため、貸借対照表の現金・預金とは一致しません



設備投資額/減価償却費/リース料

(単位：億円)

	2007年度 1Q実績	2008年度	
		1Q実績	増減額
設備投資額	3	4	1
減価償却費	7	8	1
リース料	2	2	0

■ 設備投資 2008年度 第一四半期 主要項目

■ 中国での工場建設投資



2008年度 第1四半期

新製品開発の現状

**常務執行役員 研究開発本部長
西畑 利明**

(見通しに関する注意事項)

新薬の研究開発から承認・発売までは非常に長期間を要し、開発中止、承認申請後の不許可などの不確実性を多く含みます。当社が開発中の新薬あるいは追加効能・剤型等について、販売・製造の許可がおりるかどうか、あるいはいつ承認を得ることができるかを確実に予測することはできません。

新薬に関わる見通しを実現できるかどうかは、様々な要素の影響を受けます。例えば、承認審査の遅れ、臨床試験データが競合品に対し有意差を示さない、安全性や効能に関する懸念、予期せぬ副作用、開発中止や発売時期の遅延などは、新薬開発に影響を与えることをご承知おき下さい。



主要臨床プロジェクトの現状(眼科)

■DE-085 (緑内障・高眼圧症)

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
日本	薬事・食品衛生審議会 第一部会(7/25)	製造販売承認 申請	申請時期 (2006年7月)
欧州	上市 (2008年6月～)	承認取得	承認時期 (2008年4月～)

*: デンマーク、ドイツ、オーストリア、フィンランド、チェコ共和国、スウェーデンで承認、ドイツにて上市済。

米国	今後事業化を踏まえた上、申請するか否かを決定
----	------------------------



主要臨床プロジェクトの現状(眼科)

■DE-089 (ドライアイを含む角結膜上皮障害)

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
日本	製造販売承認 申請	申請準備中	申請時期 2008年5月



主要臨床プロジェクトの現状 –角結膜疾患(ドライアイを含む)–

■DE-101 角結膜上皮障害(ドライアイを含む)

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
米国	P2	P2	一般名:リボグリタゾン
日本	P2	P2準備中	

■DE-103 アレルギー性結膜炎

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
日本	P2	P2	PDE4 阻害剤

■DE-105 遷延性角膜上皮欠損

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
米国	P1	前臨床	ペプチド組合せ剤



主要臨床プロジェクトの現状 — 緑内障・高眼圧症 —

■DE-092

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
欧州	P2パイロット試験	P2パイロット試験	一般名:オルメサルタン

■DE-090

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
日本	P2	P2	一般名:塩酸ロメリジン

■DE-104

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
米国	P2	P2	ROCK阻害剤
日本	P2	P2	



主要臨床プロジェクトの現状 -網膜疾患-

■DE-102 (糖尿病黄斑浮腫)

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
日本	P1/2a	P1/2a	ステロイドDDS

■DE-109* (滲出型加齢黄斑変性、糖尿病黄斑浮腫)

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
日本	P1/2a準備中	—	一般名:シロリムス

* MacuSight社より導入。日本を含むアジアでの眼科領域の開発・販売権を保有。



DE-109について

■シロリムス

ラパマイシンとして知られる。
免疫抑制、血管新生抑制、細胞遊走・増殖抑制、線維化抑制、血管透過性抑制などの幅広い作用を持つ高活性な化合物。

■対象疾患

滲出型加齢黄斑変性(wet AMD)、糖尿病黄斑浮腫(DME)。

■米国(MacuSight社)開発状況

P I : 結膜下注射および硝子体内注射のどちらにおいても、安全性と忍容性を確認。
網膜の形態的改善を伴う視力改善を示す症例が認められている。

P II : DME患者を対象に実施中。
2008年度の第2四半期には wet AMD患者を対象に実施予定。



主要臨床プロジェクトの現状 -関節リウマチ-

■DE-098*

地域	開発段階		備考
	今回	前回(5/9発表時)	
日本	P1/2a	P1/2a	抗APO-1抗体
欧州	P1/2a	P1/2a	

* Argenes社に導出。国内販売権、海外開発販売権は当社が保有。